

令和3年度 大田区立相生小学校 自己評価 報告書

令和4年3月10日

○ 本校の概要

開校は大正15年、今年で96年目を迎える歴史と伝統のある学校である。学級数12、児童数299名である。  
 本校の特色  
 ○健康でたくましい心と体の育成を目指して、体育の授業改善や体育的活動(ランニングタイム、短縄週間等)の充実を通して児童の体力向上及び教員の指導力を高めていく。  
 ○豊かな学力の向上を目指して、話す・聞く・読む活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力・読解力、コミュニケーション能力の向上及び教員の指導力を高めていく。  
 ○豊かな心の育成に向けて、教職員の指導の共通化を図るために、あいおいの子(学習・生活における主な約束事)を基に、全学年・全学級で規範意識や人権意識を向上させる学習や活動を行うことで、児童が安全・安心で、落ち着いた学校生活が送れるようにする。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもへの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:保護者による学校評価で「学校は丁寧で、指導-分りやすい授業に努めている」の項目で、A・B評価が85%以上である。	4	A・B評価の合計は、81.3%であった。今後も引き続き、ICT機器を活用した授業や外国語活動、話し合い活動などを学校公開において計画的に実施するとともに、情報提供を適宜行い、保護者の理解を図っていく。	A	2	・コロナの影響で人とのつながり難しい世の中ですが、子供へのケアが大切だと思います。 ・このコロナ禍、一気にICT機器の活用が全ての児童に出来るようになってきました。とても便利なツールですが、使い方を間違えると、大きな弊害も生まれます。その事も重点を置いて学習させていただきたいと思います。 ・新しい技術がどんどん進んで行くので対応することは大変だと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:保護者による学校評価で「学校は丁寧で、指導-分りやすい授業に努めている」の項目で、A・B評価が70%以上である。	B		3		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:保護者による学校評価で「学校は丁寧で、指導-分りやすい授業に努めている」の項目で、A・B評価が60%以上である。	C		0		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者による学校評価で「学校は丁寧で、指導-分りやすい授業に努めている」の項目で、A・B評価が60%未満である。	D		0		
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2	4:保護者による学校評価で「学校は、基礎基本の学力の定着に努めている」の項目で、A・B評価が85%以上である。	4	A・B評価の合計は、85.4%であった。ステップ学習チェックシートについては、その作成や活用の効率化を図ることで、児童及び保護者への情報提供の活性化を図る。	A	2	・子供の頃の暗記力は、スポンジのように思います。興味を持って自分から学習するようになっていけば最高だと思います。興味をもてる授業をお願いします。 ・やる気になると、楽しくなると良いですね。難しいことだと思えます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:保護者による学校評価で「学校は、基礎基本の学力の定着に努めている」の項目で、A・B評価が70%以上である。	B		3		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3	2:保護者による学校評価で「学校は、基礎基本の学力の定着に努めている」の項目で、A・B評価が60%以上である。	C		0		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:保護者による学校評価で「学校は、基礎基本の学力の定着に努めている」の項目で、A・B評価が60%未満である。	D		0		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童アンケートで自己評価に関する項目で、4段階B以上が85%以上であった。	4	「自分にはよいところがある」と肯定的に捉えている児童は、75.4%であった。成功体験を味わうために、学校内外に発表や表現を行う機会の充実を各学年で図っていく。また、エールワークでの取組を活用し、低学年のうちから、自分や友達のためや可能性を認め合える経験を味わわせていく。	A	2	・日本人は、他の主な国と比べて、自己肯定感が低いと聞いていますが、75.4%は高い数字だと思います。学校の取組の効果ではないかと思えます。 ・コロナ禍で色々な人と会う機会が減っている事で体験できないのさびしいと思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:児童アンケートで自己評価に関する項目で、4段階B以上が70%以上であった。	B		3		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:児童アンケートで自己評価に関する項目で、4段階B以上が60%以上であった。	C		0		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:児童アンケートで自己評価に関する項目で、4段階B以上が60%未満であった。	D		0		
プラン4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者による学校評価で「学校は児童の体力向上、健康増進を目指した取組を行っている」の項目で、A・B評価が85%以上である。	4	A・B評価の合計は、88.2%であった。令和3年度から取り入れているランニングタイムを活用したり、持久走記録会(仮称)を実施したりすることで、一層の体力向上を図る。さらに、そでの児童の取組の様子を、適宜保護者に情報発信していく。	A	3	・学級閉鎖でリモート授業と聞きます。校庭で思い切り体を動かしたいものです。 ・休み時間にグラウンドで元気に遊んでいるたくさんの子供たち、放課後、校庭をランニングしている子供たちを見るとき、このコロナの中、元気をもらいます。 ・外で遊ぶことが減っている様なので学校での運動は大切ですね。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2:保護者による学校評価で「学校は児童の体力向上、健康増進を目指した取組を行っている」の項目で、A・B評価が60%以上である。	B		2		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者による学校評価で「学校は児童の体力向上、健康増進を目指した取組を行っている」の項目で、A・B評価が60%未満である。	C		0		
		校内独自の取組であるランニングタイムをはじめとする体力向上の取組について、その意義を理解した上で、日常的に実施している。	4:「実施できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		D		0		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者による学校評価で「学校は児童理解に努め、個に応じた指導をしている」の項目で、A・B評価が85%以上である。	4	A・B評価の合計は、85.5%であった。今後の改善策としては、児童理解や児童対応を中心とした、学級経営に関するOJTの充実を図る。またその際、年間を通じたOJTの計画に位置付けるとともに、年度当初のOJTで重点化を図るなどの工夫を行う。	A	2	・授業の時間に学習だけに集中できる環境を先生にも生徒にも与えられる補助をお願いします。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助産・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:保護者による学校評価で「学校は児童理解に努め、個に応じた指導をしている」の項目で、A・B評価が70%以上である。	B		3		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:保護者による学校評価で「学校は児童理解に努め、個に応じた指導をしている」の項目で、A・B評価が60%以上である。	C		0		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:保護者による学校評価で「学校は児童理解に努め、個に応じた指導をしている」の項目で、A・B評価が60%未満である。	D		0		
プラン6 なつて学校も家庭も地域も一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	2	4:保護者による学校評価で「学校は教育活動の積極的な情報発信を行っている」の項目で、A・B評価が85%以上である。	4	A・B評価の合計は、79.8%であった。地域に開かれた教育の充実をさらに高めるために、学校支援地域本部を通して、保護者やボランティアが読書活動の充実へ協力していただくなどの機会を積極的に設定していく。学校支援地域本部を適したゲストティーチャーの招へいについては、今後も積極的に活用していく。また教員間の情報共有を行っていくことで、情報の蓄積を図る。以上のことに取り組みしていくことにより、今後も家庭や地域の教育資源を有効に活用した教育活動を展開していく。	A	1	・地域(町会)で下校時の見守りを計画しているがコロナ禍のため実施できず(毎月第二木、第四金)・アンケートが示されているのは、成果指標に対する回答がなかったりしているのがある。私も、別紙で回答した通り、本項目に対する回答は差し控える。 ・今年度もコロナ感染症が続き、思うように児童の情報を得る事が出来ず、地域住民として、申し訳なく思っています。 ・今回、体調などを崩し、学校の方に行けなかった事、申し訳なく思います。自分自身として、地域のかかわりができなかった為の評価です。 ・地域の祭礼なども出来ず、つながりが無くなって、みんなが困ってますね。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:保護者による学校評価で「学校は教育活動の積極的な情報発信を行っている」の項目で、A・B評価が70%以上である。	B		2		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域1回以上行った特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:保護者による学校評価で「学校は教育活動の積極的な情報発信を行っている」の項目で、A・B評価が60%以上である。	C		1		
					1:保護者による学校評価で「学校は教育活動の積極的な情報発信を行っている」の項目で、A・B評価が60%未満である。	D		0		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。